

令和3年度 武蔵野市地域自立支援協議会全体会（第2回）

グループディスカッション ワークシート

グループ名： C

【テーマ】「武蔵野市の地域課題の解決に向けた協働の在り方について
～新たな部会での活動を通して～」

テーマ 1-1：課題の共有

「各部会の活動報告を受けて」

- ・武蔵野市の場合、知的障害者を対象とした体験の場や生活の場は整えられているが、医療的ケア児者や高次脳機能障害がある人達を対象とした場については課題が沢山あると感じている。精神障害者の地域移行については、地域移行部会や地域活動支援センターとの繋がりが大切だと感じた。
- ・年間 20 人以上が地域移行できたという実績を聞いたことがある。市内に精神科病院はないが、今後が楽しみ。当事者部会ではコロナワクチンで亡くなった人がいると聞いたのでそれが残念。
- ・地域移行と地域生活支援拠点については、部会を超えて地域課題を共有しながら並行した活動ができることがありがたいと感じた。
- ・当事者部会の意見を聞くと、具体的な内容や課題が出てくることを実感した。
- ・コロナ対応部会では、早い段階で事例集を作ることが決まったが、アンケートのたたき台を作る際には時期によって様々な状況が変わるという点に直面し難しかった。どのようなエピソードを拾えば、事業所にとって有意義な事例集になるのかという点が難しく、部会で意見を出し合った。新型コロナウイルス感染症が蔓延し事業所として困惑する状況もあり、その状況をアンケートに盛り込んでいったところ。当事者からも、新型コロナウイルス感染症で訪問看護師が来ることができなくなったなどの困りごとを聞いている。本日他部会の報告を受け、自分たちの活動は居住支援ともつながることを実感した。今後も共有しながら活動を進めていけたら良いと思った。
- ・差別解消部会では、バス運転手との交流を図り、より快適に障害者が外出できるようにと進めた。しかし新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受け、実際に交流をすることはできず、活動自体にも影響を受けていると感じた。福祉の現場にはいないため想像になってしまうが、やはり新型コロナウイルス感染症は大きな問題だと感じた。

テーマ 1-2：課題の共有

「武蔵野市の地域課題とはなんだろう」

- ・まずは新型コロナウイルス感染症。入所支援の現場の管理者もしているが、障害のある人自身が影響を受けている面もあれば、事業所としてダメージを受けている面もある。生命や生活の維持、欠けてはならないことが欠けていくといった、ベーシックな部分の危機があると感じている。事業が充実する、人が育つ、事業の価値を高めるといった豊かさや充実を高めることが難しくなっている状況。そういった機会自体が新型コロナウイルス感染症の蔓延によって減った。方法をかえて豊かさの追求していくことは見えてきたところではある。地域の社会サービスとして、不特定多数が利用するサービス（短期入所など）も非常に展開しにくくなっていると感じている。

- ・新型コロナウイルス感染症の蔓延により、プログラムを中止したり利用時間を制限したりしているため、利用者に迷惑をかけていると感じている。「居場所」であり、行きたいときに自由に行ける場であるが、相談のみ行ったり、時間を区切ったりと工夫をしているため、「居場所」として影響は受けている。また新規相談者の件数も減るなど事業所への影響も感じている。メンバーの生活面では、新型コロナウイルス感染症感染対策のため都会に出るのを控える、外に出ないようにしている人もしているため、そもそも「居場所」に来られない人もいる。人とのつながりがなくなった人もいると聞いている。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響として、就職した人の企業訪問をする（就労定着支援）機会が減り、オンラインでしている状況。去年よりも新型コロナウイルス感染症は落ち着いたもののその状況は続いている。本人が働いている職場の雰囲気を感じ取れないことが残念。ハローワークの求人数も減った。職場のストレスを外出することで発散している人も外出できなくなっており、働く面で新型コロナウイルス感染症の影響は受けていると感じている。
- ・当事者の立場としては、地域移行については戻ってくる場所が必要と感じている。グループホームをもっと市内に作るためには、土地を持っている市民に対する啓発などが不可欠になると思う。退院した人の多くはグループホームに入る形になるため、グループホームがある自治体に行くことになることも聞いている。新型コロナウイルス感染症に関しては、職員の家族が感染してリモートワークになるなどの不自由はある。食事提供サービスができないなどプログラムが減っている気がする。開所時間も短くなり、4月以降に様子を見て開所時間を検討することとなっている。集まることができないため、Zoomを使った活動となっている。活動自体も10人にするなどの人数制限もある。
- ・新型コロナウイルス感染症が蔓延する前にも地域課題はあったと思うが、いまは新型コロナウイルス感染症との関係はどうするかということは外せない。地域課題をとらえ直す機会ともなっているのではないかな。
- ・グループホームで障害者の生活を支えている。グループホームの維持ができない状態となっても利用者はそこで生活をせざるを得ないため、陽性であっても職員は働き続けなければならないというグループホームがあったと聞いたことがある。非常にシビア。
- ・精神障害者の地域移行について、場がない、人もいないため、次の一手としてどのような活動を進めていくのか関心がある。

テーマ2：目標設定

「テーマ1-2で共有した地域課題の解決に向けて、新たな部会での活動を通して活動できること・協力できることはなんだろう」

- ・地域移行支援については、月に2回面会に行くこととなっているが、病院がコロナ禍で面談ができない状況のため、とっかかりが難しくなっているのではないかと思います。
- ・地域移行支援の主体者やネットワークがどこなのか、正直ぴんと来ない。
- ・コロナ対応部会のアンケートでは、事業所での困りごともあるが、困っていた状況だけでも取り組むことができたエピソードも集めることができたなら良いとも話している。しかしアンケートをどれぐらい回収できるかといった課題や、無理にポジティブな事例にしたい気持ちもある。
- ・コロナ禍の影響の1つとして、事例を通じた学びが薄くなってきている。リアリティをもって話ができると、相乗効果で課題も見える気がする。
- ・新型コロナウイルス感染症に関する不安や、事業所のBCPをどうするか気になった。家事援助のヘルパーも新型コロナウイルス感染症に感染してしまうと、打つ手がないように感じる。
- ・本来対面で話すのは自然免疫力を高めると聞いているが、今は難しいと感じている。
- ・地域課題をどう集めるか、それが分からないこと自体が課題だと感じている。課題を上げる専門部会はないため、各部会の活動において工夫しながら集める必要があると感じた。まず部会で上がっている課題を共有できたら良いと思った。